

#16 Enjoy Speaking 2

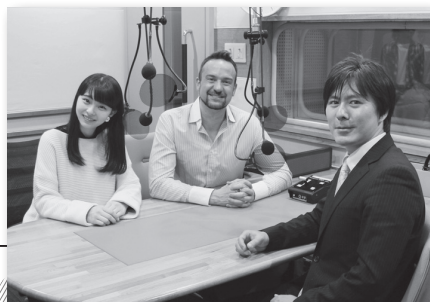
Your experience

speaking

講師
工藤 洋路
(学習メモ執筆)

今日の学習のゴール

これまでに学習した表現や文法を用いて、自分の経験について、聞き手にわかりやすく説明したり、その場でやり取りを続けたりすることができる。



右から、講師の工藤洋路先生、じえいそんさん、川口ゆりなさん

今回の学習のポイント

ペアでお互いの経験について、スムーズに会話を展開するために、相手の言ったことに対して、適切な質問をしてみましょう

1文をしっかり正確に言えるようになったら、どんな順番で話したらよいかを考えながら話してみましょう

経験は時間の流れで話すと、聞き手にわかりやすくなります

時間の流れで話すときは、then、so、butなどの接続表現を使うとよいでしょう

スムーズな会話を展開するために…

次の会話は Yurina と Kazuma の会話です。

Kazuma が Oh. ... Where ... ah ... what ... と言っているところがあります。うまく英語で質問ができていませんが、where (場所) と what (行動) を同時に聞こうとしているので、適切な英文が浮かばなかったようです。5W1H (what/who/where/when/why/how) は1つずつ聞いていきましょう。

Yurina : Have you ever visited Miyazaki?

Kazuma : No. Um... have you ever visited Saitama?

Yurina : Yes.

Kazuma : Oh. ... Where ... ah ... what ...

→ Where in Saitama did you visit?

Yurina : I visited Omiya.

Kazuma : What did you do there?

Yurina : I had a video shoot there.

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

文ごとに見ると間違いはないけれど…

次の英文は、Kazuma が話した英語です。1文ずつ見ると、文法的には正確ですが、「いつテニスをやめたいと思ったか」という質問に対して、最初に「やめなかった」(I didn't quit tennis.) と答えています。この回答は質問に対して不自然な回答になっています。

- 「いつテニスをやめたいと思ったか」の質問の答えとして

I didn't quit tennis. I started to play tennis when I was 9 years old, but I had to study to enter high school.

Kazuma は、言いたいこと整理して、同じ質問に対する回答をもう一度話してみたところ、次のような英語を話しました。流れがとてもスムーズになりました。どのように言いたいことを整理したかは、次の Door to Success で見てみましょう。

I started playing tennis when I was 9 years old. When I was 14, I thought about quitting because I had to study to enter high school. But I didn't because tennis makes me refreshed. Then, I could study better.

Door to Success

時間順に話してみよう

経験について話すときは、次のYurinaさんの話のように、時間の順に話すと流れがよくなり、聞き手にわかりやすい英文になります。

出来事を順番に話すときには、then（そして）を間に入れると、話の流れが良くなります。

「理由と結果」の関係を表すときはsoを用いたり、「反対の内容」を表すときはbutを使うなど、接続表現を使うことで、さらに話の流れがよくなります。

I started golfing when I was 8 years old. Then, when I was 15 I started taking dance lessons. I got busy with dance lessons, so I didn't have much time for golfing. But I didn't quit because I like both golfing and dancing.



You Know What?

日本と海外の宿題事情

前回の You Know What? で、じえいそんさんが、アメリカは9月に新年度が始まるので、夏休みには宿題は出ないという話をしてくれました。もちろん、これは新年度の前だからであって、普段、アメリカの学校で宿題が出ないということではありません。ただ、日本の学校での宿題と違う点があるということをじえいそんさんは教えてくれました。宿題は英語では **homework** と言いますが、それは文字通り、家 (**home**) でおこなう作業 (**work**) ということですが、アメリカの学校には、**study hall** と呼ばれるものがあって、生徒たちは授業のない時間帯に **study hall** に行き、宿題を済ませてしまうようです。**study hall** には、先生はいるようですが、基本的には特に何も教えてくれるわけではなく、生徒たちが自分の宿題に取り組んでいるという場所のようです。学校で宿題を終わらせてしまえば、放課後は有意義に過ごせますので、その後の時間が自由になることを生徒たちは望んでいるようです。その日の宿題を **study hall** ですべて仕上げたしまおうということです。この **study hall** ですが、日本の学校にも「自習室」というような名前似たような部屋があります。また、高校では、選択の授業がいくつかあり、すべての時間割を埋める必要がない場合は、空き時間ができて、図書館で宿題をおこなうこともありますので、日本の高校生も似たようなことをおこなっているのかもしれませんが。

宿題を忘れると、学校や先生によって、いろいろなペナルティーがあるかもしれませんが、じえいそんさんが通っていたアメリカの高校では、宿題を忘れた生徒に対して、先生が「家に帰って取ってきなさい」と指示を出すこともあったそうです。日本では考えられないことです。登校中は下校するまで学校の外に出るはいけないというルールもある学校が多いのではないのでしょうか。アメリカの高校生は自分の車で通学している人もいますので、家が近ければ、すぐに戻って取りに行くことは可能かもしれません。宿題に対する先生の対応は日本とアメリカでは大きく違うということです。